

員藤岡市助君會長席ニ就キ開會ノ旨ヲ告ゲ次テ左ノ演說アリタリ

桂川水力電氣工事

工學士 中原岩三郎君

拔萃

土木

○ろつてるだむノ新浮船渠　ろつてるだむ市ニテハ同港ニ出入スルトコロノ最大船舶ノ修繕ヲ爲シ得ル爲メ一大浮船渠ヲ新築セリ其大サハ長五百六十五呎全幅百二十呎有効幅底部ニテ八十八呎頂部ニテ九十六呎總高五十呎内部ニテ側壁高三十六呎六ナリ

構造ハ七個ノ獨立底船ト兩個ノ側壁船トヨリ成ル底船ハ各長百二十呎(船渠全幅ニ對スルモノ)巾七十九呎高中央ニテ十三呎左右兩端ニ於テ十二呎ナリ此底船ハ各個ノ間ニ二十三吋半ノ間隙ヲ存シテ側壁船ニ釘結ス此間隙ハ必要ナル場合ニ一個ノ底船ヲ鄰船ニ支障ナク側壁ヨリ離去シ得ル爲メニ存スルモノナリ底船ハ長各百二十呎ノ二十四個ノ鐵構ヲ以テ形成シ三個ノ隔壁ニテ全長ヲ四分シ四個ノ水密槽船ヲ構成ス各底船ノ重量ハ六百噸ニシテ底船總重量ハ四千二百噸ナリ

側壁船ハ左右各高三十三呎半ニシテ底幅十六呎頂幅十二呎ニシテ毎米間ニ鐵構ヲ以テ補強ス側壁總重量ハ千八百噸ナリ

排水唧筒ハ總計十四個ニシテ底船一個ニ二個宛配置ス給水管徑ハ十五吋四分ノ三排水管徑ハ十一吋四分ノ三ナリ唧筒ハ離心廻旋形ニシテ各秒時ニ二十立方米ノ水ヲ排除シ得ル能力ヲ有ス唧筒及阻水弁ハ凡テ電動機ニテ働キ此唧筒ノ外ニ滄水ヲ排出スル爲メれんつ形ノ唧筒四個アリテ各一時間ニ五十立方米ノ排水能力ヲ有ス

出入船舶ノ操縦ニハ八個ノ電氣絞盤ヲ備へ又白熱燈及弧光燈ヲ以テ船渠ノ全部ヲ明照ス浮船渠ノ總重ハ底船四千二百噸側壁船千八百噸ノ外ニ機械數五百噸總計六千五百噸ニシテ一万六千乃至一万八千噸ノ船舶ヲ浮揚シ得ルモノナリ

此浮船渠ノ築造ハざるゝむんどくろんねノ請負ニテ其金額約九十万六千圓ニシテむーす河岸ニ五百坪ノ地所ヲ擇ビ十五分ノ一ノ勾配ノ造船架上ニ於テ築造セリ

(せゑんじにや 千九百七年十二月六日)

(ひ、な)

譯者ハ浮船渠ニ關シ左表ヲ附加ス

所在 港名	長	全幅	幅	内幅	全高	浮船渠ノ重量	浮揚力	百噸ノ浮揚力ニ對スル浮船渠ノ重量	價
すてつちん	二二〇 ^米	四二、八八三 ^米	三三、三〇〇 ^米	一九、〇五九 ^米	二二〇〇 ^噸	三六〇〇〇 ^噸	四六二、二五〇、〇〇〇		
きやび	一五〇、四四〇	八六三〇、四八							

抜 萃

二百二十三

ろつてるだむ(新)	一七二、一三六、五八二、六、八二	一五、二四	六五〇〇	一八〇〇〇	三六	九〇〇、〇〇〇
あるじゑるす	一六〇、〇三八、五	三〇、四八	一五、二四	五八五〇	一八〇〇〇	三三二、一、六一八、〇〇〇
べるみゆだ	一六六、二三八、四	三〇、四八	一六、二三	六五〇〇	一五五〇〇	四二二、九五〇、〇〇〇
すてつちん	一一五、五三三、八	—	一三、五	四〇〇〇二	一一二〇〇〇	三三三
はば	な 二三七、二三二、九	三四、九九	一四、二二	四二六〇	一〇〇〇〇	四三三、〇〇〇、〇〇〇

○内港ノ設備

ういやむ、うゐるきんそん、すくあいや氏ハ千九百七年ノ工學者會合ニ於テ内港ノ設備附ケタリ其動力トシテ電力、水力ノ比較利益ト題シ一場ノ講演ヲ爲セリ左ニ其演説及討論中動力ノ比較ニ關スル大要ヲ抄譯ス

ひ、な、

演説

渠門、水門等ニ關スル裝置繫船設備、航路標識、及乾船渠等凡テ船舶ノ操縦上安全並便利ニ關スル設備ハ商買ノ種類ノ如何ニ依リ殆ンド差違ナキモ荷物ノ取扱ニ關スル特種ノ設備ニ至リテハ輸出入ノ荷物ノ種類、貨物ノ容積、荷役ノ方法、荷捌ノ遲速、及或ル程度ニ於テ氣候、商買ノ習慣等ニ依リ著シキ相違ヲ生ズルモノナリ之レヲ例スレバ直通貨物ニ對シ鐵道道路及舁ノ布配ニ注意ヲ要シ通過貨物ニ對シ上屋ヲ必要トシ貯藏貨物ニ對シテハ倉庫ヲ要スルノ類ナリ近來船舶ノ容積著シク増大セシ爲メ以上ノ設備ハ一層其必要ノ程度ヲ高メ殊ニ貨物ノ積卸ニ關スル起重機ノ設備ニ至リテハ其機能ト迅速ト精確トヲ各港之レヲ競フニ至リタリ以上設備ノ動力トシテ水力又ハ電力ヲ使用ス各利不利アリ渠門水門等ノ開閉裝置ニ於テハ電力應用ニ苦心スルモノアルモ未ダ水力ノ簡單確實ニ及バズ起重機、扛重機ノ動力トシテハ